興奮と熱気に包まれた!!

第40回諏訪神社式年 柱祭り

平成28年
4月17日
（日）

河原町練り歩き

数えで7年、6年に1度の柱祭りが4月17日（日）に執り行われました。その起源は古く、天明2年（1782年）にまでさかのぼります。山入りでは強い雨が降り注ぎましたが、お天道様が見ているかのごとく、しだいに雨はやみ天気は回復。

この勇壮な祭りを一目見ようと、町内外から1万人以上の人が詰めかけ、町全体が熱気に湧きました。

宮総代　江口　光弘さん

私が経験した中でこんなに雨が降ったのは初めてのことでした。山入りは地面がぬかるみ、中には滑って転んだ人もありました。危険を伴いましたが、皆さんが真剣に携わってくださったおかげで大きな事故もなく本当に良かったです。

これまで一緒に準備をしてきた人と握手をすると、目頭が熱くなりました。情熱を燃やして準備をし、多くの苦労を分かち合いました。皆さんに心底感謝の気持ちでいっぱいです。

上町　山本　学さん

智頭町に生まれて35年になりますが、担ぎ手として参加したのは今回が2回目です。このように伝統のある祭りを受け継いでいくよう、6年後もまた参加したいと思います。

上町宮入り

下町練り歩き

中町　小橋　大樹さん

結婚し子どもと3人で2年程前にUターンで智頭へ帰ってきて、初めて参加しました。足組み、ムカデ組み、町飾りなどの準備は難しかったのですが、教えてもらうことで近所の人たちと交流できて良かったです。柱は重たかったけれど、それ以上に楽しかったです。将来、父と息子と3世代で柱を担ぐのが夢です。

下町　石谷　公さん（町内会長兼取締役）

昨年の夏頃から準備が本格的に始動し、地元の人とのつながりが増えました。御神木を山からおろすときは大雨で、また斜面がきつく大変だった分強く記憶に残るはずです。

次回は6年後ですが、これまで受け継がれてきたことを後世につなげていきたいです。

河原町　尾坂　誠さん

6年経つと平均年齢が上がり、地元の担ぎ手が減りました。しかし、この日のために県外から帰ってきてくれる若い人が多く、山入りにも参加し、しっかりと指示を聞いて忠実に動いてくれて頼もしかったです。

事故なく無事終えられたのは、皆さんの力が結集し、連携があってこそだと感じました。